

科目名	ソーシャルワーク実習指導2（社会福祉士必修）			
授業形態	演習	学年	2	
開講時期	2021年度 前期～後期	単位数	2	
担当教員	鈴木 勲			
内容および計画	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク実習（社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な社会福祉現場での実習であり、本学では23日間以上、かつ180時間以上の実習時間を設定しています）を行う場合に、必要となる相談援助に係わる知識と技術について、現場実習前の事前学習、現場実習中の巡回指導等、現場実習後の事後学習を行う。</p> <p>事前学習では、相談援助実習先や対象者の理解や相談援助技術等について学びを深めます。事後学習では、実習で学びや価値観のゆらぎ等を話し合ったり、自己の課題等を整理し、実習の成果については報告会で発表する。</p>			
1	オリエンテーション ソーシャルワーク実習の意義について			
2	実習先の理解及び相談援助に係わる知識と技術について学ぶ1			
3	実習先の理解及び相談援助に係わる知識と技術について学ぶ2			
4	実習先の理解及び相談援助に係わる知識と技術について学ぶ3			
5	実習先の理解及び相談援助に係わる知識と技術について学ぶ4			
6	実習先の理解及び相談援助に係わる知識と技術について学ぶ5			
7	倫理・守秘義務等の理解			
8	社会福祉実践における記録の意義について			
9	実習記録ノートの理解1			
10	実習記録ノートの理解2			
11	実習における実習計画書の目的			
12	実習計画書の作成1			
13	実習計画書の作成2			
14	実習計画書の作成3			
15	実習計画書に関する実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者の協議			
16	ソーシャルワーク実習に向けての最終確認			
17	実習巡回指導1			
18	実習巡回指導2			
19	実習巡回指導3			
20	実習巡回指導4			
21	実習巡回指導5			
22	ソーシャルワーク実習を終えて			
23	ソーシャルワーク実習の振り返り1			
24	ソーシャルワーク実習の振り返り2			
25	実習報告書の作成1			
26	実習報告書の作成2			
27	実習報告書の作成3			
28	実習報告書の作成4			
29	実習報告会の実施			
30	実習報告会をふまえての実習に関する自己評価とまとめ 教科書			
教科書				
	タイトル	著者名	出版社	発行年


特にテキストの指定はしない。必要な資料は授業時に配布する。

<b>参考書</b>	その都度紹介する。
------------	-----------

**成績評価**

評価方法	割合(%)
発表	40
課題・レポート・報告書等	40
グループ学習	20

実習をとおして、実践的な援助技術を体得し、実り多い実習とするためにも、事前、事後の学びも大切にし、自身の課題を整理すること。

<b>学習到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助実習の意義を理解する。</li> <li>2. 相談援助実践を行う上で必要な知識及び技術について具体的かつ実際に理解を深める。</li> <li>3. 社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、課題把握能力等、総合的に対応できる力を身につける。</li> </ol>
<b>先修条件</b>	ソーシャルワーク実習指導 I、社会福祉概論 I・II、ソーシャルワーク演習、社会保障論 I・II、子ども家庭福祉、障がい者福祉論、高齢者福祉論
<b>実務経験</b>	児童相談所児童福祉司としてソーシャルワーク業務に従事した経験がある。
<b>その他</b>	事前、事後の出席回数が不足していたり、学習の状況が不十分な場合には、実習委員会の判断により、実習の中止や単位認定ができないこともある。なお、本科目は、ソーシャルワーク実習と同時に履修する必要がある。